

今年は関東大震災から100年です。
住まいの地震対策について今一度確認しましょう。

もくじ

- ◆ 防災グッズ備えていますか？ 1
- ◆ 家具転倒防止対策 2
- ◆ 地震時におけるエレベーターの注意事項 3
- ◆ 地震時におけるエレベーターの注意事項（続き）・
応急危険度判定を行います 4



防災グッズ備えていますか？

主な備蓄品	① 食料品	水(1人1日3ℓ目安)・缶詰・レトルト食品・チョコレート等、加熱せずそのまま食べられるもの
	② 燃料	カセットコンロ・予備のボンベ等
	③ 貴重品	現金(公衆電話用10円硬貨等)・預金通帳・保険証・免許証等
	④ 救急用品	ばんそうこう・消毒液・市販薬・常備薬・包帯・お薬手帳等
	⑤ 衣類	上着・下着・靴下等
	⑥ 生活用品	ゴミ袋・トイレトーパー・ティッシュペーパー・ウェットティッシュ・オムツ・生理用品・ハンカチ・タオル・ラップ・歯ブラシセット・マスク等
	⑦ その他	ラジオ・懐中電灯・簡易トイレ・乾電池・軍手・使い捨てカイロ・ライター・缶切り・紙皿・紙コップ等

災害時には、一人ひとり必要なものが違います(めがね・入れ歯・ミルク・ほ乳瓶等)。




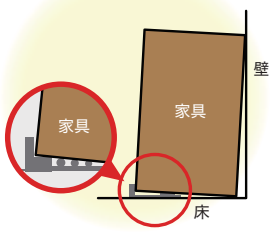
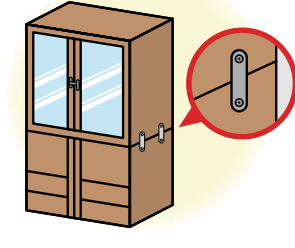
状況に応じて、備蓄品を揃えましょう。量の目安としては、おおよそ3日～1週間分です。

揃えたものは、リュック等避難時に両手が使えるかばんに詰めておき、万が一の際にすぐ持ち出せるようにしておきましょう。

**家具の転倒防止
措置が命を守る!!**

家具転倒防止対策

いつ起こるかわからない地震！4つのポイントをチェックし、ご自宅の安全性を確認しましょう。

<p>対策のポイント1</p> <p>安全空間を確保する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 配置する家具の数を減らす。 <input type="checkbox"/> 部屋の出入り口付近には、キャスター付きの家具類を置かない。 <input type="checkbox"/> 地震時の出火を防ぐため、火気の周辺に家具を置かない。 <input type="checkbox"/> 寝室、幼児・高齢者のいる部屋にはなるべく家具を置かない。 <input type="checkbox"/> 家具の上に物を置かない。
<p>対策のポイント2</p> <p>家具の正しい設置・使用を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 家具が寝床に倒れない配置を工夫する。 <input type="checkbox"/> 家具が転倒しても、避難路をふさがない置き方をする。 <input type="checkbox"/> じゅうたんや畳に背の高い家具を置かない。 <input type="checkbox"/> 重い物を下の方に収納し、倒れにくくする。 <input type="checkbox"/> 前のめりより、後ろもたれ気味に置く。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>× ベッドのうえに転倒</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>○ ベッドのない所へ転倒</p> </div> </div>
<p>対策のポイント3</p> <p>家具・家電の転倒を防止する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 家具の固定に用いる器具は家具類の重さや形状に応じて選ぶ。 <input type="checkbox"/> 2種類以上の器具で上下から固定する。【ポール式とストッパー式】 <input type="checkbox"/> 上下が分割している家具は必ず金具で連結する。【連結金具】 <input type="checkbox"/> 高いところや不安定なところに家電を置かない。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div data-bbox="518 1294 853 1601"> <p>【ポール式】</p>  <p>奥に設置 家具の両側に設置</p> </div> <div data-bbox="861 1294 1141 1601"> <p>【ストッパー式】</p>  <p>家具 床</p> </div> <div data-bbox="1149 1294 1444 1601"> <p>【連結金具】</p>  </div> </div>
<p>対策のポイント4</p> <p>収納物の飛散を防止する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 開き戸タイプの家具には開き扉ストッパーを取り付ける。 <input type="checkbox"/> ガラス扉には飛散防止フィルムを貼る。 <input type="checkbox"/> 食器棚の棚には食器が飛び出ないように、滑り止めシートを貼る。 <input type="checkbox"/> テレビとテレビ台の間に振動を吸収する粘着マットを設置する。 <input type="checkbox"/> 扉のない収納家具には、落下防止バー・落下防止テープを取り付ける。

家具等の転倒防止を目的にねじ止め器具等で壁にビス穴を空ける際は、**口径9mm、深さ2.5cm以内**の穴であれば原状回復義務が免除となります。

地震時におけるエレベーターの注意事項

地震時にエレベーターは使用しないでください

エレベーターには地震感知器が装備されており、地震を感知すると最寄階に停止した後、扉が開き照明が消灯し避難をうながします。一定時間（15～20秒）後、扉は自動的に閉まりますが、「開」ボタンを押せば再度開きます。

震度によっては、休止後しばらくすると再稼動しますが、地震時は余震も含めエレベーターでの避難を行わないでください。



地震時にエレベーターに閉じ込められた場合は…

エレベーター内非常呼ボタンを**約5秒以上押し続け**ると、エレベーター保守管理会社、管理事務所内または、1階エレベーターホールにあるインターホンと接続し、会話することができます。

決して扉をこじ開けないようお願いします。昇降路内へ転落する危険性があります。



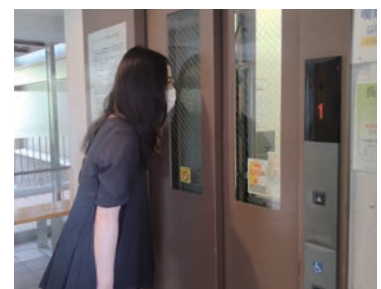
地震時にフロントスタッフが不在の場合は、閉じ込め有無の確認をお願いします

1. インターホンで閉じ込められた方がいないか確認する。

1階乗場にインターホンがある場合は、インターホンを使ってエレベーター内に呼びかけ、利用者が閉じ込められていないか確認をしてください。

2. 乗場側から閉じ込められた方がいないか確認する。

(1) 乗場階数表示灯でエレベーターの停止階を確認し、防犯窓越しに見て、閉じ込められていないか確認をしてください。また、階に着床したエレベーターに閉じ込められた利用者を確認した場合は、中の方に「開」ボタンを押し、扉を開けるよう案内をお願いします。この際、扉が開かなかった場合は、エレベーター保守管理会社へご連絡いただきますようお願いいたします。



(2) 乗場階数表示灯が消えている場合は、エレベーターの停止位置が分からないので、全ての階でエレベーター内に向け声かけをしてください。閉じ込められている利用者がいた場合は、エレベーター保守管理会社へご連絡いただきますようお願いいたします。

地震発生後におけるエレベーターの復旧について

概ね震度4以上の地震が発生した場合、エレベーター保守管理会社は、棟単位で最低限の縦動線を確認していく「1ビル1台の復旧」を行います（すべてのエレベーターを復旧していく場合と比べ約30%の時間短縮）。この際、閉じ込めの救出を優先とし、病院等弱者が利用する建物、公共性の高い建物、概ね60m（20階）以上の高層住宅の順に復旧していきます。

このため、60m未満（19階）以下や複数台設置されている住宅において、全てのエレベーターが復旧するまでには時間を要しますので、ご理解のほどお願いいたします。

なお、概ね震度4以上の地震の場合は、ご連絡がなくても、エレベーター保守管理会社が、順に復旧対応いたします。



大規模な地震が発生した際は「応急危険度判定」を行います

JKK東京は、大規模な地震が発生した場合、速やかに応急危険度判定に着手します。しかしながら、地震の規模によっては、判定に時間がかかる場合もあります。地震が起きたら、まず身の安全を守り、判定結果を待たずに避難所に行くなど、状況に応じたご対応をお願いいたします。

応急危険度判定とは

地震には本震と余震があり、大規模な地震の際は、本震と同程度の余震が起こる可能性が高いと言われています。応急危険度判定は、地震により被災した建物の、その後の余震等による倒壊や転倒の危険性等を出来る限り速やかに判定し、恒久的復旧までの間、建物の使用にあたっての危険性を情報提供することで、余震等による二次災害を防止することを目的としています。



立ち寄らない

避難所に避難をおねがいします



二次被害の危険性あり

必要が無い限り立ち寄らない
(被害状況による)



危険、要注意には該当しない

判定が行われた建物にお住いの皆さまは、判定結果に応じたご対応をお願いいたします。

災害への備えについて、JKK東京ホームページに詳しい情報を掲載しております。ぜひご確認ください。

JKK東京HPはこちら

